
教育総合センター だより

NO. 181

令和 8. 9. 1



つながる縁、つないでいく未来

武庫の里小学校

校長 濱口 真由美

朝、校門に立つことが、私の一日の始まりです。私の手には、子どもたちに親しまれている武庫の里小学校のマスコット、ハリネズミの「さとちゃん」がいます。登校してきた子どもたちは、「おはようございます！」と元気に挨拶をしながら笑顔を向けてくれます。地域で子どもたちを見守ってくださる方々とも、さとちゃんを介して自然と言葉を交わし、「今日も一日頑張ろう」とエールを送り合っています。私にとって、さとちゃんは人と人との心をつなぐ小さな架け橋です。そんな朝のひとときに、学校とは、人と人との出会いによって育まれる場所なのだと実感します。

私が教師を志したきっかけは、高校時代の恩師との出会いでした。部活動で後輩を指導していた私に、「後輩への教え方が上手だね。」「教師という仕事が向いているかもしれないね。」と声をかけてくださいました。それまで教師という仕事は、自分の将来の選択肢にはありませんでした。しかし、その何気ない一言が私の人生を大きく動かし、教育の道へと導いてくれたのです。あの日の先生の一言は、私の人生の進む方向を変えてくれました。人と人との出会いには、人生を変える力があるのだと思います。

大学卒業後、小学校に赴任した私は、管理職や学年主任、先輩の先生方に支えられながら、授業づくりや生徒指導、保護者対応など、

教師としての基礎を一つひとつ学びました。今の私があるのは、あの頃に出会った先生方のおかげです。

思い返せば、小学生の頃の私は、人前で発表することが苦手で、自分に自信をもてない子どもでした。6年生の教室では女子同士のいじめが絶えず、「次は自分かもしれない」という不安の中で過ごしていました。しかし、中学校では、自分の思いを受け止め、支えてくれる仲間や先生に出会い、少しずつ自信を取り戻すことができました。この経験が、「子どもたちには安心して過ごせる学級をつくりたい」という私の教育の原点となっています。

教師として何よりうれしかったのは、初任校で担任した教え子たちとの再会です。校長として赴任した学校で、教え子がPTA会長となり、副会長や執行部として学校を支えてくれていました。あの日、教室で夢を語り合った子どもたちが、地域の大人として学校づくりに力を尽くしている。その姿を目の前にしたとき、教育とは、人と人との縁が時を超えて受け継がれていく営みなのだと胸が熱くなりました。

今日も私は、さとちゃんとともに校門に立ちます。子どもたちとの今日の出会いが、やがて誰かの未来をつなぐ「縁」となることを信じて。

☆☆多様な学び研究部会の紹介☆☆

1. 本研究部会の概要

本市では不登校児童生徒のための支援として、多様なニーズに応じた学びの機会と環境の充実に努めてまいりました。その取組の1つとして本研究部会は、昨年度から立ち上がり、「尼崎市における多様な学びの推進」をテーマに掲げ、すべての児童生徒が安心して学校生活を送り、学びに向かうことができる基盤づくりについて1年間にわたり研究を行いました。

具体的には、新たに開校する「学びの多様化学校」尼崎市立尼崎琴葉中学校（令和8年4月開校）に焦点を当て、多様な学びの在り方について、検討を行いました。また、入転学に係る説明会や希望者を対象とした体験活動への参画をはじめ、文部科学省が委嘱した「学びの多様化学校マイスター」である黒沢正明氏を講師に迎えた研修を実施するなど、研究を重ねてまいりました。

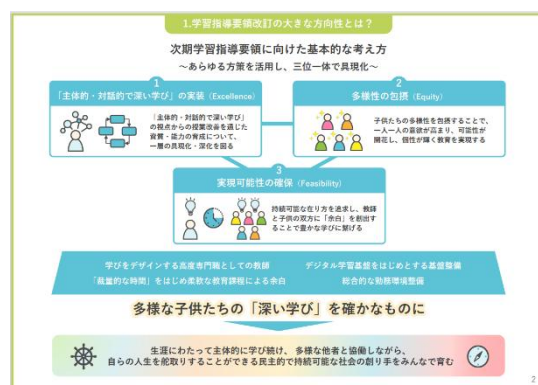
その成果として、多様な児童生徒の現状を多角的にアセスメントすることの必要性や、先進校による、多様な児童生徒の学びの在り方そのものにフォーカスされた実践等を知ることができました。

一方で、「児童生徒の興味関心や特性を考慮した集団での授業の在り方」や、「多様な状況にある児童生徒の学習評価の在り方」等については、引き続き研究を進めていくべき課題として挙がりました。

2. 国の動向

こうした中、令和7年9月に行われた文部

科学省教育課程企画特別部会では、次期学習指導要領に向けた基本的な方向性として、「『主体的・対話的で深い学び』の実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の3要素を一体的に具現化する重要性が示されました（図1）。



（図1） 論点整理(文部科学省教育課程企画特別部会)

3. 今年度の研究の方向性

今年度は、国の動向における「多様性の包摂」に着目し、児童生徒が抱える背景や特性の多様化を前提とした上で、「すべての子供が安心して学び、自己実現を図ることができる多様な学びの推進」を目指し、研究を進めていきたいと考えております。

その上で、昨年度の研究で明らかとなった成果や課題も踏まえ、市内全校へ多様な学びを推進していくため、小学校や中学校において、不登校児童生徒をはじめとする多様な状況にある子供たちの学習内容や学習環境の在り方について、実践的な研究を進めてまいります。

（学び支援課指導主事 小出 成美）

◇◇不登校対策・支援の取組について◇◇

1 はじめに

令和6年度の小・中学校における不登校の児童生徒数は、全国で35万人を越え、12年連続で増加しています。尼崎市においては高止まり傾向にあるものの、小・中学校とも出現率は全国を上回っており、多様な教育的ニーズに対応できる環境づくりが必要な状況です。不登校児童生徒を減らすことと適切な支援につなげていくことが必要になってきます。グラデーションのある学びの場の1つとして令和8年度から学びの多様化学校として尼崎市立尼崎琴葉中学校が開校しました。現在尼崎市で行っている、不登校支援事業についてお伝えします。

2 不登校対策・支援について

① 校内サポートルーム・エリア

- ・ 令和8年度中に尼崎市立全小・中学校に設置します。
- ・ 教室での学びにしんどさを抱える児童生徒の居場所として各校で工夫をこらし環境整備をしています。
- ・ 不登校支援員を配置し、R8年度は全小中学校に週5日×4時間に拡充し児童生徒の支援を行っています。



② ほっとすてっぷ 教育支援室

- ・ 市内3か所（EAST、WEST、SOUTH）に設置しています。
- ・ 学校に通うことは難しいが別の場所で学びたい、他者との関わりを持ちたい児童生徒が通っています。
- ・ 自学自習を基本に、関わりが持てるよう一緒に体験活動をすることもあります。



③ サテライト教室 学習支援室

- ・ 市内8か所に設置しています。
- ・ 学校に通うのは難しいが少人数で学習をしたい児童生徒に向けて開設しています。
- ・ 地域の生涯学習プラザを利用しています。
- ・ 自学自習が基本ですが、こども自立支援員のサポートも受けることができます。



④ ハートフルフレンド

- ・ 家の外に出にくい児童生徒にハートフルフレンドのボランティアが家庭を訪問し、話し相手になったり、学習をサポートします。

⑤ 尼崎琴葉中学校

- ・ 3学年で40名程度が在籍しています。
- ・ 不登校傾向、不登校経験のある生徒が通い集団で学んでいます。
- ・ 教職員の手厚い支援と安心・安全な居場所となる環境が工夫されています。
- ・ 学びの多様化のフラッグシップ校として、実践から得られた知見を地域の学校に横展開を図っていきます。



3 おわりに

多様な不登校対策を進める中で、不登校児童生徒への支援が広がりつつあります。しかしながら、まだ支援につながっていない児童生徒をどのようにつなげていくのかという課題もあります。

不登校児童生徒が自尊感情や自己肯定感を高め、自主性や社会性を伸長できるように取り組んでいきたいと考えています。一人ひとりの社会的自立に向けて学校と協力し連携を図りながら誰一人取り残されない学びの保障に向けて、適切な支援につながるよう進めていきます。

（こども教育支援課 係長 三河 聡）

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。
また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

(3F 教育情報コーナー)

【新着図書】

- 『学校で性暴力が起こったらーチームで立ち向かう緊急対応・再発防止』
田口 奈緒 編著／合同出版
- 『学校と境界知能』
宮口 幸治・宮口 英樹 編著／東洋館出版社
- 『多様性を包摂するこれからの授業とクラス』
ネットワーク編集委員会 編／学事出版
- 『学校のメンタルヘルスー子ども、教師をどう支えるか』
伊藤 美奈子 著／岩波書店
- 『スクール・シフト3ーあなたが未来の「授業」を創造する』
宮田 純也 編著／明治図書
- 『図解 最新教育ワード 2026-2027』
教育の未来を研究する会 編／明治図書
- 『いつも子どもはまるまるそこにいる 』
多賀一郎・宗實直樹 著／東洋館出版社
- 『それがやさしさじゃ困る』
鳥羽 和久・植本 一子 著／赤々舎

(担当 松浦)

☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『学習指導要領はどう変わろうとしているのか』2025年12月初版発行 株式会社 東洋館出版社
著者 佐藤 明彦：教育ジャーナリスト

滋賀県出身、大手出版社勤務を経てフリーの記者となり、2002年に編集プロダクション・株式会社コンテクトを設立。教科書の企画・編集に携わる傍ら、自身は教育分野の専門誌等に記事を寄稿。教員採用試験対策講座「ぷらすわん」事務局長、『月刊教員養成セミナー』元編集長を歴任。

主な著書：『日本の学校教育はどこに向かおうとしているのか』（東洋館出版社）『教育DXと変わり始めた学校ー激動する公教育の現在地』（時事通信社）等多数。

2025年9月に中央教育審議会が公表した「論点整理」を基に、次期学習指導要領の方向性を詳しく解説した本である。「好きを育み、得意を伸ばす」「多様性の包摂」「情報活用能力」「探究」といったキーワードについてもQ&Aで丁寧に解説されており、これからの教育がどう進もうとしているかを知るうえで読んでおくべき一冊である。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 西川)